



<21>

なぜ勉強するの？

財団法人日本青年研究所の「4カ国の高校生の調査」によると、「自分が偉くなりた」と感じている割合」はアメリカ22・3%、韓国22・9%、中国34・4%である。

その理由は「一生に何回かは大きいことにチャレンジし

てみたい」(アメリカ)、「大きな組織の中で自分の力を発揮したい」(韓国)、「やりたいことにくら困難があっても挑戦したい」(中国)である。

一方、日本は8%。偉くないことに対するイメージは、



志の格差を痛感

中高学院大学受験指導事業部長 井川 隆成

定志向が強く、偉くなることや出世することに対して消極的な高校生が多い。勉強する意味が分からないまま勉強している生徒が多いのが実情だ。

だから日本の高校生は他3

強している割合では、日本は4・3%にすぎず、アメリカ、韓国の半分以下である。明らかに言えることは、次世代の日本を担う高校生のマインドが冷え、自己実現に対する夢や目標を持つことより

日本以外の3カ国は「自分の能力を発揮することができ」とプラス思考なのに対して、日本では「自分の責任が重くなる・自分の時間がなくなる」とマイナス思考である。

日本では、多少退屈でも平穏な生涯を送りたいという安

方国と比べ、勉強時間の格差も激しく生じている。平日の宿題以外の勉強時間の調査によると、「全く勉強しない」生徒の割合は中国6・5%、韓国17・55%、アメリカ24・3%に対し、日本34・3%と突出している。4時間以上勉

も、今の環境に適応して生き延びようとする姿勢があることだ。過日話をしたスリランカ人の大学留学生は「親類が内戦で死んだ。平和な国を目指すために国連職員になりたい」と強い意志で学んでいる。

このように大学生においても日本と世界で、志の格差があるのかもしれない。グローバル化が進むこの時代、教育を通じて国際競争力をつけなくてはならないであろう。高校生に「夢」を持たせること。一つの動機付けの切り口ではあるが、「夢」を抱かせるために外的な刺激ばかりを求めても難しい。小中学生のころ、家庭教育や学校教育を通じて学んだこと、さまざままな人との出会い、経験、コミュニケーションを通じて刺激を受けたことなど、今は忘れていたその時に漠然と抱いた夢を気づかせることも大切である。高校生に「なぜ勉強するの？」と聞かれたときに答えを導くヒントとしてもらいたい。